



角川武蔵野ミュージアム
Kadokawa Culture Museum

公益財団法人
角川文化振興財団
Kadokawa Culture Promotion Foundation

公益財団法人角川文化振興財団
2025年3月18日

浮世絵の世界に没入し、江戸時代にタイムスリップ！ 「体感型デジタルアート劇場 浮世絵 RE:BORN」 角川武蔵野ミュージアムで4月26日より開催

公益財団法人 角川文化振興財団（所在地：東京都千代田区、理事長：川上量生、以下 角川文化振興財団）は、「ところざわサクラタウン」内、「角川武蔵野ミュージアム」（館長：池上彰）1階のグランドギャラリーにて、巨大映像空間へ没入する360度体感型デジタルアート劇場第5弾「体感型デジタルアート劇場 浮世絵 RE:BORN」を開催いたします。

会期は2025年4月26日(土)～2026年1月18日(日)、5月6日(火)までのチケットは2025年3月18日(火)13時に発売します。

■江戸時代のメディア「浮世絵」に没入し、時空を飛びこえて体感するイマーシブ作品を上映

江戸時代に誕生し、花開いた浮世絵。庶民に親しみやすい主題が描かれ、木版印刷により量産され安価で流通した浮世絵は、当時の重要なメディアのひとつでした。浮世絵には人々の日常が描かれており、当時の流行や暮らし、日本の風景を知ることができます。歴史や伝説上の武士や英雄を描いた武者絵、歌舞伎役者を描いた役者絵、芸者や遊女、市井の女性を描いた美人画、各地の名所や富士山などを描いた風景画など、描かれる主題は多岐にわたり、庶民の生活に彩りを添えました。

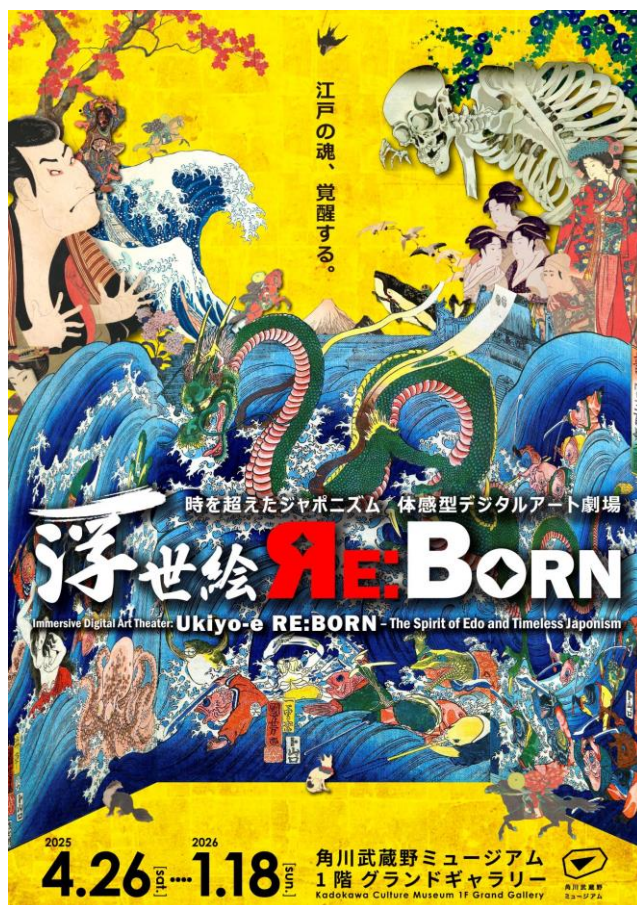
角川武蔵野ミュージアムでは、これまでも数多く共作してきたクリエイティブディレクターのジャンフランコ・イアヌツィとタッグを組み、浮世絵による体感型デジタルアート展を開催します。喜多川歌麿、東洲斎写楽、葛飾北斎、歌川広重、歌川国芳といった名だたる浮世絵師たちが描いた世界の中で、名所や宿場町を巡り、芝居小屋で歌舞伎を鑑賞し、伝説の生き物や妖怪たちに囲まれながら、当時の人々の喜びや楽しさを体感できるでしょう。

音楽は、竜馬四重奏を率いるヴァイオリニストの竜馬による完全書き下ろし。ストリングス、ピアノ、尺八や箏などの和楽器によるモダンな演奏とともに、江戸時代へタイムスリップして浮世絵の世界をお楽しみください。

なお会場では、池上彰館長による映像作品の音声解説を聞きながら鑑賞することができます（無料）。ご自身のスマートフォンとイヤホンをご使用いただき、お楽しみください。

■ジャンフランコ・イアヌツィによる浮世絵をテーマにした完全新作の体感型デジタルアート劇場

アートと物語を全身で浴びる没入（イマーシブ）体験。角川武蔵野ミュージアムではグランドギャラリーにおいて、1000㎡以上の巨大空間をあますことなく映像と音楽で包み込む「体感型デジタルアート劇場」を開発しました。33台の高輝度プロジェクターを組み合わせ、すべて



キービジュアル

の壁面と床面をシームレスに繋ぎ合わせた全く新しい映像体験は角川武蔵野ミュージアムならではの、映画とも VR とも違う「共有できる」特別な時間と空間を提供しています。

これまで第1弾「浮世絵劇場 from Paris」(2021年)、第2弾「ファン・ゴッホー僕には世界がこう見えるー」(2022年)、第3弾「サルバドール・ダリー エンドレス・エニグマ 永遠の謎ー」(2023年)、第4弾「モネ イマーシブ・ジャーニー 僕が見た光」を開催。多くの来場者がアートに包み込まれる没入体験を楽しみました。

角川武蔵野ミュージアムは、「ファン・ゴッホ」展以降のクリエイティブディレクターを務めるジャンフランコ氏とともに、今回も完全新作として「体感型デジタルアート劇場 浮世絵 RE:BORN」を制作。ワールドプレミア作品として初上映し、日本から世界に向けて発信します。



ジャンフランコ・イアンヌツィ

■イマーシブアート クリエイティブディレクター ジャンフランコ・イアンヌツィ (Gianfranco Iannuzzi) プロフィール

アーティストであり、イマーシブシアターのクリエイティブディレクター。イマーシブシアターの先駆者として、35年以上にわたり世界中で数多くの展覧会を開催し、何百万人もの観客を迎えてきました。

WEBサイト: <http://www.gianfranco-iannuzzi.com/>

■Violinist 竜馬書き下ろしの演奏で江戸時代にタイムスリップ

会場を包み込む数多の浮世絵とともに奏でられるのは、Violinist 竜馬氏が本展覧会のために書き下ろした楽曲の数々です。江戸時代をモダンな楽曲と演奏で表現し、新しい世界観の中で浮世絵を再構築します。

■Violinist 竜馬 (from 竜馬四重奏) プロフィール

大河ドラマ『龍馬伝』『天地人』や、映画『三丁目の夕日』など300本以上の映像作品の演奏に携わり、ドラマや映画、CMに出演。作曲家としても数々のイベント、CM、舞台、ファッションショーを手がけ、『YAMATO』は野球日本代表侍 JAPAN の応援歌に起用された。また、プロデューサーとしてインストゥルメンタルグループ「竜馬四重奏」を立ち上げ、2016年にポニーキャニオンからメジャーデビュー。世界的に評価を得ている。



Violinist 竜馬

【展覧会概要】

展示タイトル: 時を超えたジャポニズム 体感型デジタルアート劇場 浮世絵 RE:BORN 江戸の魂、覚醒する。

英語タイトル: Immersive Digital Art Theater: Ukiyo-e RE:BORN – The Spirit of Edo and Timeless Japonism

会場: 角川武蔵野ミュージアム 1階 グランドギャラリー

住所: 埼玉県所沢市東所沢和田 3-31-3 ところざわサクラタウン内

会期: 2025年4月26日(土)~2026年1月18日(日)

休館日: 毎週火曜日 (4月29日(火)、5月6日(火)、8月12日(火)、9月23日(火)、12月30日(火)は臨時開館。6月2日(月)~6日(金)、12月31日(水)、2026年1月1日(木)は臨時休館)

営業時間: 10:00~18:00 (最終入館は 17:30)

展覧会公式サイト: <https://kadcul.com/event/222>

主催: 角川武蔵野ミュージアム (公益財団法人 角川文化振興財団)

チケット価格(税込):

●オンライン購入 (<https://tix.kadcul.com/>)、当日窓口購入

一般(大学生以上): 2,700円 / 中高生: 2,200円 / 小学生: 1,500円 / 未就学児: 無料

※「1DAY パスポート」チケットなどでも本展覧会をご覧いただけます。詳細は公式サイトでご確認ください。

* 休館日、開館時間は変更となる場合があります。最新情報、詳細は公式サイトでご確認ください。

* 展示内容が変更、または中止になる場合がございます。予めご了承ください。

■「角川武蔵野ミュージアム」について

図書館、美術館、博物館が融合した文化複合施設（館長：池上彰）。初代館長の松岡正剛氏が世界を読み解く9つの文脈に沿って独自の配架をした「ブックストリート」、博物学者の荒俣宏氏が監修する「荒俣ワンダー秘宝館」、「本と遊び、本と交わる」をテーマにした「本棚劇場」、これら「エディットタウン」は当館のメインエリアです。本棚劇場では、360度を取り囲む高さ8mの巨大本棚にプロジェクションマッピングが映し出されます。また、マンガや多数の出版社のライトノベルが並ぶ「マンガ・ラノベ図書館」や、企画展が開催される「グランドギャラリー」など、松岡氏が提唱した「想像力とアニメに遊ぶミュージアム」として、様々な「まぜまぜ」を提供します。建築デザイン監修は隈研吾氏、アート部門ディレクターは神野真吾氏。

公式サイト：<https://kadcul.com/>

X(旧 twitter)：https://x.com/Kadokawa_Museum

Instagram：

https://www.instagram.com/kadokawa_culture_museum

Facebook：

<https://www.facebook.com/kadokawaculturemuseum>

一般の方からのお問い合わせ：0570-017-396（受付時間：10:00-18:00）



© 角川武蔵野ミュージアム

■角川文化振興財団について

角川文化振興財団は「わが国の文化の振興に寄与する」という財団の設立目的実現のために、文芸の成果に対する授賞、文芸に関する出版、文芸の研究や著述の刊行への助成、映画芸術振興に関する助成、また文芸・映画資料の収集・保存・展示等、様々な事業を行っております。

公式サイト：<http://www.kadokawa-zaidan.or.jp/>